

「平成30年度 第2回大月みらい協議会」

会 議 概 要

日 時 平成30年7月20日（金）午後7時から午後9時まで

場 所 大月短期大学 会議室

出席者 委員12名（9名欠席）

小笠原則雄、長田弘、小俣理美、三富聖久、佐々木啓吉、佐藤茂幸、志村淳、
庄司有紀、白川太、仁科美芳、三木範之、武者稚枝子

【事務局】 石井企画財政課長、金畑地域活性化担当リーダー、久保井、堀内

1. 志村議長あいさつ

暑い毎日が続いております。ご苦勞様でございます。いよいよチャレンジ事業ということで各グループに分かれて始まりました。昨年1年間には理念とかビジョンとか、議論を重ねてお互いに苦勞してきましたが、チャレンジ事業のタイミングになりまして、私達が子どものことをイメージしながら、一生懸命、自分達大人が夢を語りながら相談をしてきたのかなと思っております。いよいよ始まりましたので、これからもよろしくお願い致します。

また、山梨中央銀行の小池さんに代わり、大月支店長に就任されました三富さんが、大月みらい協議会の中で一緒に参加して頂くこととなりました。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

2. 議 題

(1) 平成30年度第1回会議概要について

- 平成30年度第1回会議概要の市ホームページへの公開について承認されました。

(2) 大月みらい協議会チャレンジ事業の企画発表について

- 議題2については、佐藤副議長が進行を行うこととなりました。

【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。金曜日の遅い時間にお集まり頂きありがとうございます。皆さんお疲れだと思いますが、もう少し頑張ってもらって、チャレンジ事業の本格的な実施に向けて検討していきたいと思っております。

チャレンジ事業としては、4つの事業を進めていくこととなりました。これについて、今日までの2ヶ月間で各グループに企画を作ってもらいました。この企画について、今日発表して頂きたいと思っております。

時間は限られていますので、Aグループから発表して頂きますが、各グループ5分程度、資料に沿って内容を発表して頂きます。その後、質疑応答をして確認をさせて頂こうと思います。質疑応答については議論するというより、基本的な確認や補足説明というように捉えさせて頂きます。

チャレンジ事業をやらないという選択肢はないのですが、少なくともみらい協議会の中で、総意を持って進めていくということの確認をしていきたいと思います。また、4つのグループで相互に連携しながらいくこともあろうかと思っておりますので、ここで情報共有を図っていききたいと思います。このみらい協議会で了解が得られましたら、チャレンジ事業を実際に進めていくということになります。

それでは早速、Aグループから発表をお願い致します。

< Aグループ発表 >

【白川委員】

白川です。Aグループから発表致します。まず、私達のチャレンジ事業の目的は、「中学校で実施している職場体験を通じて、子どもに、仕事を通じたカッコいい大人の姿を見せ、夢や希望を持つきっかけづくりを行う。同時に、子どもと向き合うことにより、受け入れ側となる企業の社会的役割及び従業員の仕事に対する意識の向上を図り、大人自身が夢や希望を持つことの大切さを再認識させる。」ということです。夢という言葉がキーワードで、職場体験を通じて、大人と子ども達がふれあって、そこで夢を語れば非常にいいきっかけが出来るのかなということで、私達の目的を設定しました。

先日、6月21日に、市内中学校の職場体験を担当している先生方とメンバーで意見交換会を行いました。そこで、現状、学校として職場体験に対してどんなことに困っているのか？それから、事業所を経営する委員がメンバーにおりましたので、職場体験でこんなことをやっているけどどうなのか？という意見交換を行いました。

これは私の感想なのですが、中学校で行っている職場体験について、これまで学校と我々事業所側で、あまりにも会話がありませんでした。そのような中、新しく発見することがたくさんありまして、どちらかと言うと、事業所側はオブラートに包んで子ども達と接していましたが、先生方はそうではなく、もっと泥臭いところだとか、もっとこのようなことを教えて欲しいとか、もっとこんなことを伝えて欲しいということがたくさんありました。そして、出来ればこの意見交換会をきっかけに、今後も会話を続けられればということが先生方の本音のところであったと思っております。また、職場体験の重要性というのを先生方がすごく理解されていて、子ども達が職場体験をした後に「変わった」という子ども達が何人もいらっしゃるということを知りました。そのような意味でも、この職場体験は、大人と接するいい時間なんだなということを強く感じました。

意見交換会の中ではいろいろなアイデアも出ました。市内にはどんな事業所があるのか、その部分から先生方がわからない状況がありました。それで仕方なく先生方が振り回って

お願いしているということでした。そのようなところも我々は地元の間人ですなのでかなりお役に立てるところもあります。それから事業所名が分かっている、事業の内容が何なのか分からないので、子ども達に伝えることが出来ないという状況があることも分かりました。

その中で、チャレンジ事業の具体的な内容として、1つ目に「職場体験カード」みたいなものを欲しいと先生方が言うておりました。これはアイデアなのですが、職場体験の実施事業所の案内カードを作って頂いたらどうかという意見でした。これを子ども達が見れば、子ども達の事業所に対する興味・関心が高まるのではないかということでした。これはみらい協議会として出来るなという話でした。

言い忘れましたが、ターゲットは大月東中学校です。猿橋中学校は7月に職場体験を計画してましたので、間に合いませんでした。そこで、11月くらいを予定している大月東中学校をターゲットにしていきたいと思っております。

2つ目として、学校では職場体験を行う前に「職業講話」を行うように、各団体から代表の事業所さんが学校に行って、説明会を10月くらいにして頂く内容なのですが、そこにみらい協議会のメンバーが事業所として参画できればと考えております。

さらに3つ目として、夢について事業所が子ども達と会話をしたいという話をしたところ、先生方も賛同して頂きまして、経営者の方だけでなく従業員の方々とそのような会話が出来ればといいなと考えております。たった2日間ですが、仕事だけでなく、夢について語る時間を設けて伝えて頂ければと先生方から言われました。

もう一つ大事な事として、この趣旨に賛同して理解をして頂ける事業所を募りたいと考えております。学校が持っている職場体験事業所のリストには100社くらいありますが、100社全ての方達に連絡して趣旨を説明することは非常に難しいと思います。そこで今年度は、ごく一部のところから、出来る事業所からやってみたいなと思っております。私達のAグループの事業所はこれに賛同しておりますが、まだ盛り上がりには欠けています。みらい協議会の事業所の皆様に、声を掛けさせて頂いて、ご協力を頂ければとお願いをしたいと思っております。

実施に向けた簡単にスケジュールを作りました。11月が職場体験の本番でございます。それを逆算した中で進めていきますが、各月に1回ずつ集まる中で、8月に事業所集めと情報カード作成ということで、来月にはその部分を実施していきたいと思っております。

また、職場体験が終わった後に、学校では子ども達で反省会をするようです。それが12月、1月あたりに行われるようですので、その反省会には是非我々が参加することが出来るか要望をしております。それが終わった段階で、最終的にまとめて、成果がどの程度あるのか感じ取っていききたいなと思っております。

最後になりますが、意見交換会で先生方から話を聞く中で、会議はかなり盛り上がりがありました。これは将来的にはいろいろなところに展開出来るのではないかという話にも発展していきました。以上です。

< Bグループ発表 >

【佐々木委員】

Bグループの佐々木でございます。前回、本年度第1回の会議のときに出させて頂いていた企画書と幾分変わってきております。当時、小学校4年生を対象に夏休みの宿題でという話をしていましたが、先般、小泉教育長とお話する機会がありまして、「2分の1成人式」というものがあるという話がありました。2分の1成人式というのは、20歳が成人式でその半分ということで、10歳の時に行われるようです。10歳の時というのは実を言うと小学校4年生になります。この2分の1成人式は、学校単位でそれぞれが2分の1成人式を行っているというお話を頂きました。それ故に、急遽、2分の1成人式と夢塾を連動するという企画に変更致しました。

2分の1成人式については、現在小学校では、多くの父兄の認識度は高いそうです。どんな内容かと言うと、児童の誕生時の出来事、名前の由来、幼少時の出来事、家族を中心とした思い出を親から聞き、また当時の写真や玩具、ここまで育ってきたストーリーを確認します。そこから、自分の夢を語ってもらうという内容のようです。この話の詳細は、教育委員会の教育支援室の望月先生に取材をさせて頂きました。同じグループの三木委員と一緒に伺わせて頂きました。

ここで、一番のキーワードがあります。学校というのは、「原則どんな活動も全員で出来るということにしていけないといけない」ということです。それ故、夢塾という位置づけは、2分の1成人式は校内学習、夢塾は校外学習というような形で連動させることによって、一つの子どもの夢を育てていこうというような形に企画変更致しました。

資料の最後のページに子ども達の夢があります。これは、大月東小学校の6年生が将来の夢ということで、何になりたいか？という内容で希望を取った一覧となっています。中々難しいのではないかと我が々のところに話がありました。例えば、ここにある夢の中で、「ロボット博士になりたい」、あるいは「折り紙作家になりたい」、あるいは「水族館の飼育員になりたい」といったときには、インターネットで調べますと、「折り紙作家になりたい」という場合には、甲府市役所の図書館で折り紙展をしているようで、そこに折り紙作家がいっぱい集まって来たということです。また、「水族館の飼育員になりたい」という場合には、山梨県立富士湧き水の里水族館（忍野村）だとか、「ロボット博士」に至っては、山梨大学の教授にロボット博士がいらっしゃいます。

このような形で、子ども達の夢を繋げていける下地は十分にあるだろうということで、後は前回お話したように、サポーター講師は、子どもとの面接、相談、指導を原則3回行い、それを以って一つの卒業とするという形です。卒業後、指導を受けたい場合は保護者と講師とのお話になります。以上のような形に持っていきたいと考えております。

基本的な流れとしては、前回通りの流れとなるのですが、2分の1成人式の時期が2月頃に学校ごとに行われるということで、実質的に動けるのは年度が替わった4月以降ということになると思います。それが一つ問題であります。

また、もう一つの問題としては、サポーターの方々を紹介するに当たり、謝礼も何もなく、予算がとれないということです。あくまでボランティアということについて、その部分のところでどのように捉えていくのかということです。

私達のゴールという部分は、企画書を出すということです。これを教育委員会等々に諮って頂いて、可能性があればさらに進めるという状況にしておきたいと思います。私どもの動きの中では、一つ提案をしたというところでストップさせて頂きたいと思います。以上です。ありがとうございます。

<Cグループ>

【志村議長】

志村です。それではCグループから発表させていただきます。Cグループは学童クラブを拠点にした取り組みでございます。

事業の名称ですが、今のところ未定です。理由は、先に決めておくということが中々難しく、むしろ事業を展開しながら、子ども達や先生の目の輝きとかを見ながら、事業の形を見極めながら、やっていながら考えていきたいというところでございます。事業主体はみらい協議会Cグループでございます。実施時期については、8月から翌年の3月までということで、少しスタンスを置きました。理由は、学童の先生方とヒアリングしたり、話をしていると、当初「悪いのですが少し待ってくれませんか？」とか、「今年度いっぺんにはやりきれない」という部分がありまして、半年くらいでやりましょうということ形に、自然となっていきました。対象団体は学童クラブでございます。大月市には7つの学童クラブがございます。

事業計画です。まず、事業目的については、「ふるさと大月の夢を描き、夢を語る子どもや大人の集う場所を学童クラブに求め、地域の方々の参画を得て、未来を担う子ども達の放課後の時間を豊かに編んでいく。」という言葉を使ってみました。

次に事業概要についてです。事業目的を達成するために、1つ目として、各学童クラブの求めに応じて、さまざまな支援を行っていきます。2つ目として、各種いろいろな分野の専門家の知識のある方々、あるいはこんなこと、あんなことを得意とする人達を発掘しながら、学童クラブと地域住民との交流の促進をしていきます。3つ目に活動事例として、チャレンジ事業のメインメニューとして、大月の豊かな自然ということを考えまして、野外活動を通じてバードウォッチングとか、生物・植物の自然観察をしていこうじゃないかと考えています。これは身近な地域の中で考えていこうということです。それから室内活動については、後程説明させていただきますが、内容的には読み聞かせを考えております。また、情報の提供については、学童クラブの先生方と話していると、先生方も職業婦人でございます。一生懸命仕事をしながらご家庭のことをされているという中で、なるべく先生方のご負担にならない形で、子ども達や保護者の皆さんに夢を抱いて頂けるような情報を提供していきたいと思っております。

次に事業展開については、学童クラブの調査を踏まえて、より具体的な計画書を学童クラブごとに作成していくという展開を考えております。まず、学童クラブのリーダーの先生方は全員が集まって会議を開くことがあり、1ヶ月か2ヶ月おきに開催されるそうですが、6月15日に開催されましたので、その席に私どもが出向きましてお願いを申し上げました。そのお願いの部分を読ませて頂きます。『「子どもが抱く“夢”を応援する大月」についてのお願い』。学校が終わり保護者のお迎えが来るまでの“子ども達にとって自由なひと時”それに順応しながら精一杯支える学童の先生方のご尽力に心より敬服をしております。昨年春、私達大月みらい協議会は、市長・教育長より「ふるさと教育」について考えてほしいと依頼され、意見を重ねた結果、ビジョンの一つとして“子どもが抱く「夢」を応援する大月コミュニティづくり”を提案のうえ、この一年間のお試し事業をもって報告することになりました。そこで、私たちは「学童チャレンジグループ」として数名が集い、未来を担う子ども達の夢を育むため、先生方がやってみたいこと等がございましたら、微力ですがお手伝いさせて頂き、ご一緒に取り組むことができれば幸いに思います。何卒、この主旨にご賛同をいただき進めることができますようお願い申し上げます。』このようなことを7名の学童クラブの先生方にお話を致しました。

その時に一緒に「夢シート」という調査意向表をお渡ししました。質問項目の1つ目としては、事業についてご賛同頂けるでしょうか？もしご賛同頂けたら、丸を付けて頂けたら有難いと思いますということです。2つ目の質問項目では、「学童クラブにおいて、市民の皆さんにお手伝いできることがあると思いますか？お手伝いできることがあれば、それはどんなことですか？」ということをお願いしました。

1週間程たちましたら、先生方から回答がありました。先生方は真面目に一生懸命書いてくれました。7つの学童クラブから様々なご意見が出ました。事業に賛同し挑戦したいという学童クラブは6つありました。まだわからないので今回は見送りたいというのが2つありました。（※回答が重複しているためクラブがあったため、回答数とクラブ数は一致していません。）

私達はこの結果と自由記述で書いて頂いた欄を踏まえながら、この1年間で全部の学童クラブで行うことは無理ですので、これはこれで伺っておきながら、どんなことをやろうとしているのか教えて欲しいという意見がかなりありましたので、この中からみらい協議会のCグループとして、何をしたらいいか皆で考えてみました。それが実は最初に説明しました、「大月の豊かな自然を通じた野外活動、バードウォッチング、生物・植物の自然観察」に行き着きました。

これを具体的に進めていこうと思うのですが、学童クラブの先生方に書いて頂いた要望等がありますので、それを踏まえながら、つい先日、メンバーで手分けをして学童クラブを訪ね、先生方にヒアリングを行いました。その中で、学童の先生方に、チャレンジ事業として野外活動を行いたいという話をして、ご了解頂きました。同時に、進めるに当たっては先生方と詳細にお話をしました。例えば、野外活動のコースはどうするのか？いつ頃

やりますか？等、細かく詰めていきましたが、その中で共通した話題がありました。それは、今夏はとんでもない暑さのために、いろいろな地域で問題や事故が起きており、先生方は出来れば室内で行いたいということです。夏は室内でやって頂きたい。秋に子ども達の体力に合わせながら野外で行って頂きたいということでした。そういう中では、みらい協議会Cグループで考えた野外活動については、先生方によく理解をして頂きました。

そのようなことで、各学童クラブに事情説明をしながら、なおかつ、バードウォッチング等を行う場合の先生方の思いを聞かなければいけないと思い、もう一度手分けをして学童クラブを訪ねました。子ども達はどのようなことに興味があるのでしょうか？どのようなときに驚いたり、目が輝くのでしょうか？そういう子ども達のためには、どのような人達がいればいいのか？例えば専門的な知識を持ったり、どんなことを得意とする人達がいれば、より学童クラブの子ども達のためになるのか？というようなヒントを頂きました。そのようなことを先生方から聞いて、ヒアリングした内容を取りまとめ、まずは実施時期について検討しました。

先生方から実施時期について頂いたヒントの中に、バードウォッチングは必然的に秋以降になるとのことでどんな日がいいのか？という部分では、運動会の振替日とか、北教研（北都留地区教育研究会の通称。授業は午前中までで、昼食後児童は下校する場合が多い。）の日とか、学校創立記念日、県民の日、猿橋地区では、フェスタ猿橋の振替日等、そのような日を利用しながらやってみたらどうかなという話になりました。

Cグループについては、これから、具体的な計画を決めていきます。まず、事前計画書の作成に向けた事前調整として、野外活動については、散策コース等についてこれから先生方と打合わせをしていきます。学童クラブの所管については、教育委員会ではなくて、福祉課になりますので、福祉課を窓口にしながらい細かい打合わせをしていきたいと考えております。

また、これらの事業を実施するためには多少の経費が必要になってくるだろうと思しますので、これらにつきましては、市の企画財政課及び福祉課と相談しながら多少なりとも予算を考えておくということも考えてくれるそうです。

人員体制としては、みらい協議会の皆さん、私達のグループは4人だけですので、出来れば、内容によってですが、みらい協議会の皆さん全員にお手伝い頂ければ有難いと考えております。なぜかと言うと、野外活動については安全を第一に考えておりますので、ご協力頂ければと思っております。それから専門家と書きましたが、これは何々が得意とか、何々については詳しいよ、あるいは専門家であればこれに越したことはないのですが、そういう方々を、私達は今から探していきたいと考えております。皆さんの中で、自然観察についての植物や昆虫に詳しい方を知っていらっしゃいましたら是非とも教えて頂きたい。また、市役所の企画財政課と福祉課の職員の皆さんにもご協力をお願いしたいと考えておりますし、当然打合わせをしながら事業を進めていきたいと考えております。

そんな形で事業を進めていきたいと思っております。事業が終わりましたら、事業の検証を行

い、同時に、また私達が学童クラブへ出向きまして、いろいろな話をしたり、これからのことについてヒアリングを行っていきたいと思っております。学童クラブの先生方は非常に優しい方が多いので、細やかな対応が大事なと思いました。このような気持ちを忘れないで、最後まで進めていきたいと考えております。

今まで説明させて頂いたことについて、私達は全く素人から始めましたので、何回か勉強をしなければなりません。まず、学童保育ってどういうものなのか？国が定めた要綱、大月市が定めた要綱等の勉強会を行いました。その後、現場というものをよく知っておかなければならぬということで、学童保育のOBの先生方をお招きして、2度勉強会を行いました。実際の現場についてお聞きしました。私達がやろうとしていることは的を得ているのかどうかを見定めました。また、先生方は既にいろいろなことに取り組みされている中で、先生方に失礼がないように、夢だということで土足で踏み込むようなことは絶対にいけないというようなことで、極力気を遣いながら、遠い言葉を使いながら、どんなような形で先生方と接点を持っていったらいいのかということをおOBの先生方に教えて頂きながら今日まで進んできました。OBの先生方からは、私達がやろうとしていることは、おそらく学童保育の先生方にとっては大歓迎だろうというお墨付きを頂いた状況でございます。

後程説明させて頂きますと言った部分について説明させて頂きます。私達の事業は、チャレンジ事業のメインメニューとしては秋に予定している「大月の豊かな自然を活用した野外活動」です。それに合わせながら夏に行うことが出来るサブメニューに、室内活動として読み聞かせを考えました。読み聞かせには3人の委員が参加し、先生方にご指導頂く予定です。上手い下手は気にしませんが、練習はしっかりやっています。大事なことは子ども達が夢を抱くコミュニティということを大事にしていきたいと考えています。学童保育を拠点としながらそこに地域の皆さんがどのように関わっていくのか、そこを大事にする第一歩として、これが夢にどのように繋がるかわかりませんが、出来る限りのことをやっていきたいと思っております。恥ずかしいですが、きっかけとして読み聞かせをさせて頂きたいと考えています。皆様には応援に来て頂ければ有難いと思っております。以上で報告を終わります。

<Dグループ>

【佐藤副議長】

チャレンジDということで、“夢を叶える大月仕事人（仮称）”の情報発信事業というタイトルを付けました。この企画は5月の第1回会議のときに、コンセプトはだいたい決まっていた。その決まった内容を私の方でまとめ上げたものです。

この事業自体は、みらい協議会の中で、「夢を語る大人がいない、少ない、もしかしたら夢を持っている大人はいるかもしれないのですが私達が知らない」という問題テーマが出た中で、これを発掘して、カッコいい大人を見せて、子ども達にふるさと教育というも

のを伝えていきたいという趣旨の事業です。情報発信をしていきたいと思いますということ。

事業の目的としましては、「夢を叶える大月仕事人（仮称）」を発信していきたいと思いますということで、そもそも夢を叶える大月仕事人ってどういう人？ということから企画書の中に盛り込みました。次の5つに項目を挙げました。「①自分自身の仕事に対して誇りをもって、キラキラ活動している人」、「②若い世代に対して、地域や社会の明るい未来を堂々と夢として語る人」、「③生き方や思考がスマートでカッコイイ人」、「④仕事・人生・生活様式・趣味・風貌・言動のいずれかにおいて、大月でオンリーワンのユニークな人」、「⑤目立たなくとも一つのことをコツコツ極める職人気質な人」。この5つの項目の内、3つ該当すれば「大月仕事人」と認定することとしました。

この事業は、来年3月を期限としてゴールを設定しました。1つ目に、ふるさと教育の理念にある夢を語る大人として5つの要件に該当する「夢を叶える大月仕事人」を先導的に5名発掘します。2つ目に、これら大月仕事人に大月市広報を通じて夢を語ってもらい、生徒たちを触発し、未来を展望する想像性とモチベーションを養ってもらおうということです。媒体は、大月市の広報を使ってみようということです。また、3つ目として、大月の大人たちに対しても、次年度以降の「夢を叶える大月仕事人」になるべく啓発し、世代間の精神的な交流を深められたらと考えております。情報発信なので、大人と子どもの実質的な交流ではなく精神的な交流で進めていきたいと考えております。この結果、2年後のオリンピックの年までに、「夢を叶える大月仕事人100人」を発掘して、これをいろいろな媒体でアピール出来るような状況を作りたいということです。

具体的な事業内容ですが、おおつき広報の2018年10月号から2019年2月号まで、「夢を叶える大月仕事人（仮称）」に関するコラム記事枠を確保して発信していきたいと考えています。紹介記事対象は、「大月仕事人」を、最初にみらい協議会のメンバーを紹介して、その後はリレー形式で行っていきます。取材形式で記事を掲載していきたいと思っておりますが、その際に、中学生とか短大生で構成されるような若者取材班を編成して、その人達に子ども達の見線で取材をしてもらいます。若者取材班は、大月仕事人に個別ヒアリングし、これをインタビュー形式で記事にまとめていきます。ただ、まとめる際には大人達、私達のフォローが必要だと思います。コラム掲載は2018年10月号から2019年2月号を予定しますが、もしかしたら新年号の新春対談に盛り込むのもいいかもしれないという話もありました。また、出しっ放しではつまらないので、各学校での評判や記事活用などの反響をスクリーニングして、この事業の評価も併せてしていきたいと考えています。そして、3月に、何らかの「市民報告会」を企画したいと思っておりますので、そこでは、場合によっては今まで登場して頂いた大月仕事人によるパネルディスカッションなどを企画し、総括出来たらいいかなと考えております。これが終わった後は、チャレンジDグループでの活動を総括し、次年度以降の継続実施の有無を検証していきます。

では、どんな人が「夢を叶える大月仕事人」なのかということで、5月の会議のときに、仕事人の候補者をリストアップしました。その中から5人を選んで、登場してもらおうよう

な交渉をしていきたいと考えております。また、掲載記事の内容のイメージも作成しました。インタビューのイメージとしては、(Q1) 私たち中学生にもわかるように「お仕事(活動)の内容」を教えてください。(Q2) 「〇〇さんの夢」(将来の目標)をお聞かせください。(Q3) 「ふるさと(大月)を学ぶことの大切さ」(ふるさと教育)についてご意見をお聞かせください。(Q4) 私たち若者に対して、熱いメッセージをお願いします。という内容をインタビュー形式で掲載して、広報誌で発信していきます。

スケジュールとしましては、10月号から掲載することを考えると、8月から若者取材班を作って、8月から動かなければいけないかなと考えています。ただ、現状、8月は難しいかなという感じもあります。

この企画を進めるに当たっての課題ですが、1つ目に、若者取材班をどのように編成するか?ということ、大月短大生を2名程度アサインすることは可能ですが、中学生あるいは高校生をどのように声をかけるのか?ということが挙げられます。2つ目に、おおつき広報の掲載枠はまだ確保出来ていませんので、それが確保できるか?ということがあります。3つ目として、原稿のまとめや編集作業を誰が行うか?ということがあります。Dグループメンバーは皆さん忙しく実動が難しいので、市の方で支援して頂けるのかどうかということになります。4つ目として、他のチャレンジ事業、特にAグループとの親和性が高いと考えていますので、その部分で連携を是非とっていきたいなと考えています。5つ目として、情報発信した後の子ども達へのフィードバックに工夫が必要になると考えます。子ども達は広報誌を見てくれているのか?というところで、かなり疑問の部分があります。この部分で、子ども達にどのように伝えていくのか?ということを確認していくことも大切かと思えます。6つ目として、今回は広報ですが、どのようにして広報から違う媒体に展開していくのかということも、もしかしたら年度中に出来るようであればやっていきたいなと考えております。そして他のグループも同じだと思うのですが、継続事業をどうしていくのか?ということも大きな課題になると思います。以上でDグループの企画を発表させて頂きました。

- その後、全体を通して意見交換会が行われ、4つのチャレンジ事業の計画について、みらい協議会の中でさらに進めていくということが了承されました。
- 4つのチャレンジ事業計画の了承後、チャレンジ事業の実施に向けて、次の展開に向けてグループ会議が行われました。

(3) その他

- 事務局より、8月4日開催の「真夏のおおつき体感ツアー」の案内がありました。
- 次回日程について、全体会は10月中旬頃を目途に、議長、副議長と日程調整して通知することとなりました。